

令和3年度理論政策更新研修の開催

令和3年度の理論政策更新研修は、令和2年9月4日（土）8:20～12:30に、福井商工会議所ビル・コンベンションホールにて、会場出席63名・オンライン出席60名の計123名の受講者のもと開催された。今回は新型コロナウイルス感染症防止のため、会場入り口での検温を始め、受講席間に飛沫防止の亚克力板の設置し、はじめてのリモート開催を試みた。感染防止対策により会場の席数も限られるため、オンライン受講をお願いした受講者もあり、辛い運営となったことはお詫びしなければならない。

【研修内容】

1. 「福井県における中小企業振興施策」



福井県産業労働部副部長 伊万里全生氏

…伊万里全生副部長より、福井県の経済雇用情勢について紹介された。県内の雇用の状況については、有効求人倍率は1.79倍で、3か月連続増加となっており全国1位であること、製造業・特にITや通信では高く、逆に事務職では低くなっていること、宿泊・飲食サービス業では前年同月比▲24.7%と不況の影響が見てとれると解説された。

新型コロナウイルス感染症に関する事業者支援については、中小企業等事業継続支援金など、事業を継続していくために必要な支援策の紹介とともに、消費需要の喚起策として「ふく割(電子クーポン)」をスマートフォンアプリで発行し、県内の小売店や飲食店など幅広い店舗・業種で利用できる支援策や「ふくいdeお泊りキャンペーン」など、コロナ感染で影響が大きい宿泊業向けの施策などを紹介された。産業労働行政における最近の取組については、県内中小企業のデジタル化支援(産業のDX推進)として、DX推進チームが新設されたこと、DX事例では菓子店での事業予測システムにより、来店客の需要予測を行っていることなどが紹介された。また、県民衛星「すいせん」を令和3年3月22日に打ち上げ、「衛星画像利用システム」の本格的利用を開始し、防災など土木分野での活用される見込みが報告された。

2. 「我が社のDX戦略と今後の仕事内容の変化」

実践事例①「我が社のDX戦略と今後の仕事内容の変化」

株式会社 ウノコーポレーション 社長 宇野俊雄氏



宇野俊雄社長から、先代が鉄骨建築用ボルトと機械工具販売の商店として創業し、70年を迎える老舗であること、2003年に中国上海に子会社を設立したこと、2016年に加工事業部を創設し、自動化設備、治工具の技術を統合したロボットシステム

を開発したことなどが紹介された。社内でのデジタル化への移行プロセスとしては、まず手始めに社員全員にウィチャットを導入し、営業や会議はチャットで負荷がかからなくなった。しかし、60人の社員でもチャットをやれる人とやれない人が出てくるので、アナログの人間をデジタルに変えることに非常に苦労したことが話された。また、コロナ下での中国の子会社とのミーティングはウィチャットでスマホ画面を共有してスマホ会議で対応しているとのことであった。会社のホームページは検索されにくい、「バリトリ・ドット・コム」としたため、客先からの問い合わせが多いことが紹介された。今後の課題としては、客先でも生産技術の社員が退職するなか、生産技術を代行する製造コンサルタントとして、ロボット安全教育やオンライン有料講座・プログラミング教育などを立ち上げたとしている。生産技術の暗黙知を動画で配信するため、30秒から60秒の比較動画などを使いやっていきたいとしている。他社よりも先にやることで、客は情報を求めて集まってくると語られた。

事例②「ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた『ぼんた』のチャレンジ」

株式会社 ぼんた 社長 齋藤敏幸氏



齋藤敏幸氏は2000年9月に「ぼんた」を創業し、現在社員40名、アルバイト150名で飲食店13店舗、アパレル1店舗をかかえる。22歳で起業し失敗した後、26歳で飲食店を立ち上げた起業⇒失敗⇒復活の裏話をされた。

飲食業はコロナ禍で客足が止まるが、テイクアウトでは粗利が20%と低く、マイナス・マインドがたまり、また、ウーバーイーツや出前館などの手数料は30%と高く採算が全く合わない、客

に負担をかけるだけの商売になるとされた。そこで、結婚式の2次会でのヒントから業態転換を図ることにし、国の事業再構築補助金を利用することとした。通常ならば寿司か焼肉を選択するが、強豪ばかりでパワーゲームに陥る恐れがあると考え、福井ではあまりなじみのないジンギスカンを選択した。コロナ対策で配膳ロボットを入れて省人化し、グラスがいない卓上サーバーなども評判になったことが紹介された。飲食店に人が集まらない人材不足の原因は、スタッフの待遇が他社・他業種より悪いから・会社に魅力がないからだとし、アルバイトの応募時期固定、メディア露出による会社イメージの向上、合同説明会・会社見学で社長が動く、給料先払い、初期始動、出店地の集中などが必要とした。飲食店の最大の課題は人材問題であり、夜営業のアルバイトは学生が主体となるが、高校生を雇うことはNGであること、田舎ではフリーターや外国人労働者はほぼいないと分析している。そこで、福井における大学生の人数を把握し、福井市内に84.4%の学生が集中している現状を把握し、福井市内でのみ多店舗展開ができると判断、福井市外への出店はアルバイトが確保できないため出店しないとの戦略を示された。生産性を高めるため、会議などで計画を立てても実行できない。現場仕事は立ち仕事なのでスタッフはとにかく忘れてしまう。確認作業ができず、思い返す余裕がない。そ

ここで思い出させてやろうと、作業の優先順位表を作り徹底的にリマインドすることが大事だと紹介された。ホールの優先順位は、まず「案内・電話・見送り」であり、次が「レジ」…「洗い場」は最後という順位表に納得である。

【受講者アンケートより】



午前中開催で、13年目となったが、98%の方が開催時期、時間共に「適当である」との回答があった。また、会場については今回から福井商工会議所ビルに変更となったが、98%の方から「適当である」旨の回答があった（会場受講者）。会場受講した理由を聞いたところ、「家・職場等では受講しづらい雰囲気だから」と「会場のほうが理解しやすいから」の2項目で、過半数を占めた。また、リモート開催の運営についてオンライン

受講者に聞いたところ「スムーズな運営であった」が91%を占めた。しかし、「キーワードが聞き取りにくかった」、「キーワードはフォローがなければ講義中は印象がなく聞き逃していた」との声も頂いた。次回以降の改善点である。

講師：講義内容については、各講義で多少ばらつきはあるものの、概ね7割～9割の方から「大変良い」「良い」の高評価を受けた。特に宇野俊雄氏・齋藤敏幸氏の両氏の講義は、ともに94%の方から非常に高い評価を受けた。

研修に関する希望・要望のフリーアンサーの中においても、今後のテーマとして「スモールM&Aの取り組み」や「中小企業に紹介しやすい実績のあるITツールの解説」、「採用戦略（県外から高スキルの人材確保）、副業兼業」、「観光事業の再生」などのご意見を頂いた。また、リモート開催については、「オンラインでもスムーズに受講できましたので、コロナ禍が収まっても続けていただきたい」、石川県の受講者からは「今後もZOOM開催を継続していただければ講習内容も良い点も含め優先的に参加させていただきたい」などの回答を頂いた。事務局としては、ZOOM画面に受講者表示がない・イニシャル表示となっていて本人確認ができないという初歩的なものから、通信環境の不安定さなど改善すべき点多々あるが、チャットで多数のご意見を頂いたことは貴重な成果である。頂いた意見を参考に、今後も充実した研修となるよう改善していきたい。